

小さな学校を活かす教育を

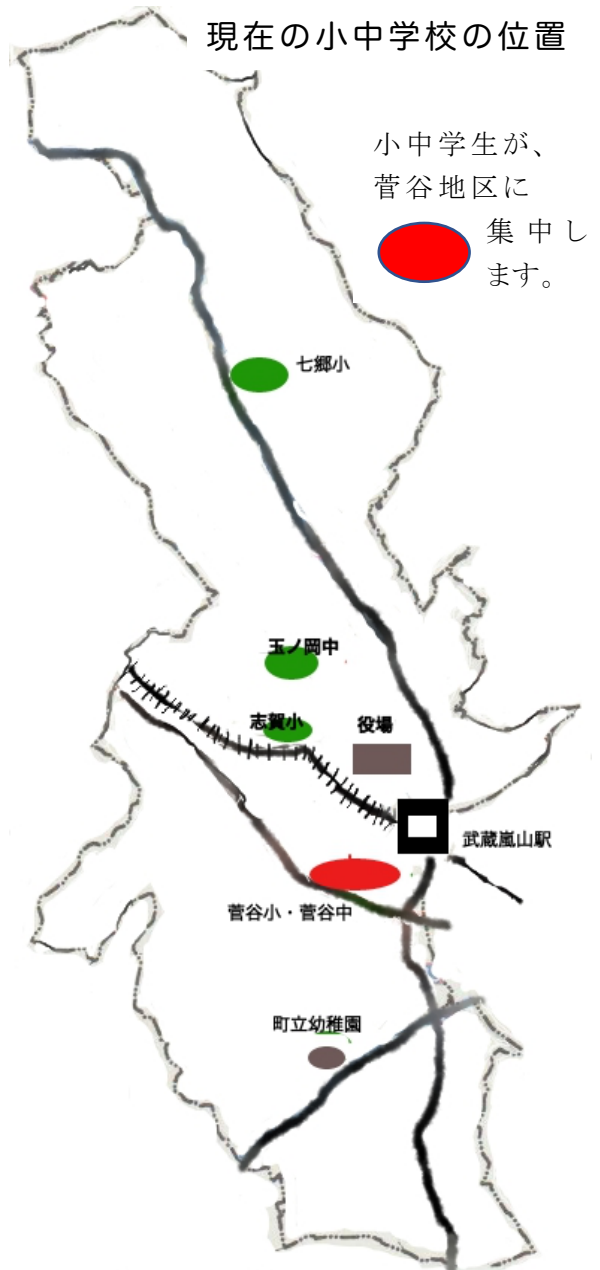
学校再編 ➡ 小学校1校・中学校1校を 考え直そう

- 小中学校再編で、18名の審議会は、町長から、学校数と場所を考えてほしいと諮問されました。学校数と場所が協議され、駅東側の小中学校をなくし、菅谷小中の敷地に小学校・中学校を設置する答申が提出されました。
- 東武東上線の線路の東側から学校がなくなるため、北部地域は子どもを見ることが少なくなり、遠距離通学で過疎化が進みます。
- 現菅谷小・菅谷中の耐震診断を委託された事業者Aが行い、どのような施設が可能か検討しています。七郷小・志賀小・玉ノ岡中の耐震診断は行っていません。
- 跡地利用を若手職員のプロジェクトチームが協議しています。若者の考えはいつだって革新的で新しい時代を作ります。
- 地域は住民の生活の場です。町長や嵐山町の所有物ではありません。住民の思いを語って、若手職員との話し合いが噛み合っ、住民のための街づくりが進みます。
- 学校再編は、地域の人と十分協議し多様な視点が必要です。
- 学校施設の老朽化は、学校統合したい思いで、管理が不適切だったからで、施設の老朽化を放置し、新校舎建設は本末転倒です。

学校は、競争社会を生き抜く学習の場？

- 学校は子どもの学びの場であり、居場所です。地域の文化やコミュニケーションが集中しています。
- なぜ、小さな学校は、嫌われるのか、複式学級(学年の異なる子どもが一緒に勉強すること)が子どもにとって不利になると考えられるのか。大人が未経験だから？
- 人数が少ないからこそ、複数の学年だからこそ「子どもも先生も楽しくなる学び」「子どもの主体的な学び」が、実現します。

現在の小中学校の位置



小さな学校のよさを生かして

- 小さな学校は、子どもたちがお互いに教え合う教育ができます。
- 生涯学習、町内と町外の人を結ぶ拠点を併設する・様々な可能性があります。
- 七郷小の近辺に地域公共交通・デマンドタクシーの拠点にし、駅東側に活力を生み出すまちづくりができます。
- 黒板に向かって椅子に座る一斉授業から子どもの知りたいことを学ぶ学校にしませんか。